

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 貴船 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

##### 教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

##### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	正答率のよい問題もあるが、全体的にみると全国平均と比較して正答率が低い問題がみられる。特に、理由を書く問題については、最後まで書いていなかったり、無回答だったりしている児童もみられ、正答率が低い。
	よくできた問題	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表現の表し方を理解し使うことができるかどうか見る問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる問題に努力を要する部分がみられる。
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均と比較して正答率が低い問題がみられる。特に、「変化と関係」と「データの活用」の領域の問題の正答率が低い。
	よくできた問題	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかみる問題について正答率が高かった。
	努力が必要な問題	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題に努力を要する部分がみられる。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「友達関係に満足しているか」との問いに対して約90%、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」との問いに対しては100%の児童が肯定的に回答している。</li> <li>・学習面においては、算数や国語などの勉強に対して、「大切だと思いますか」の問いに対して肯定的な回答が多い。一方、算数・国語の「学習内容はよくわかりますか」の問いでは、全国平均を下回っており、苦手意識がうかがえる。</li> <li>・家庭学習に関しては、「学校の授業時間以外に、平均1日当たりどのくらい勉強していますか」「休日に1日当たりどのくらい勉強していますか」の問いに対して、学習時間が少ない回答が多くみられた。</li> </ul>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・基礎学力向上のため、国語や算数の授業開始時に「フラッシュ漢字読み」や「フラッシュ計算」を行うとともに、音読や視写を意識的に取り入れる。  
 ・朝の学習タイムを活用し、既習の学習内容の定着をはかる。  
 ・授業形態や、個に応じた支援の工夫を図るなど、共に学ぶ楽しさやわかる喜びを味わわせる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の重要性や自ら学ぶよさについて、児童だけでなく保護者にも積極的に伝える。  
 ・個に応じた量や内容の宿題を出し、児童が意欲的に取り組めるようにする。  
 ・4～6年生においては、ドリルアプリを導入しているので、家庭でも取り組めるようにする。